



NPO法人取得に寄せて

この度の法人取得に際し、役員及び関係者から現在の心境など投稿してもらいました。一同決意も新たに頑張る所存ですのでよろしくお願ひします。

理事長 江頭博幸
国土交通省は、ボランティアによる送迎サービスは、個人の資格では認められない。法人格が必要だという通達を四月に出しました。この通達に基づき「さわやか」ではすぐに法人格取得の作業に入り、九月八日に法務局に登記を完了させました。

体として、国に認められたということになります。その意味で社会的に認知されたと同時に、その責任も課せられました。個人の任意団体から、法人になったことで、経理面をはじめ、契約行為、預貯金の名義など、そのもつ意味が大きく変化しました。

平成十七年には、介護保険制度の改正が行われ、今までなかった、障害者が保険の適用になる予定です。そうなること、「さわやか」の果たす役割も一段と重要になってくるものと思われれます。ボランティアの皆様の更なるご支援、ご協力をお願い致します。



副理事長 河添博志
今日の流れとはいえ、NPO法人さわやかの誕生本当におめでとうございます。これからは、法人として活躍していくことになり、今まで以上に頑張らねばと感じております。長いことさわやかに在籍しておりましたが、今までは、介護保険のいきいき北九州を通じてのみさわやかの手伝いしかできておりませんでした。これが、これからは、体力の続く限りさわやかの力となって頑張る覚悟です。



副理事長 山田浩美
今年の三月に国土交通省のガイドラインの見直しということで、その中の一つの条件が、法人格を持たない事業所は、送迎ができなくなるということでした。それから、四月二十七日の設立総会、五月六日の県庁へNPO法人の申請書の提出から八月二十八日に福岡県の認可が下り、九月十日の法人登記の成立まで、めまぐるしく、あわただしい半年でした。事務手続きに追われるばかりで、改めてNPO法人とは？考える余裕はありませんでした。「さわやか」の事業内容は変わることはありませんが、法人として社会的に認められたといえます。事務処理も今までに比べ



と多少煩雑になり、まだ、十分に把握できていない状態です。これから、ボランティアの皆様や、諸先輩の方々のご指導をいただきながら、頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

理事 加峯東樹
NPOさわやか丸として新たに船出することになって、確実な航海をする為にも、理事10人の協力が大いに必要かと思ひます。

その中の一人に選ばれた私、責任の重さを感じる次第です。50歳にして腎不全となり、人生50年一巻の終わりとなるところ、医療制度の恩恵にあらずかり今日まで命を頂いています。この恩に報いる為にも、今元気なうちに少しでも社会奉仕をさせて頂きたいと思ひます。

福腎協北九州地区長 山田 勲
NPO法人に認定されたことを、心よりお祝ひ申し上げます。

当初、立ち上げの時からかわった一員として喜びにたえませんが、八年前に何も無いときに立ち上げ、育てていただきました。コーディネーターの方に心からお祝ひ申し上げますとともに、腎友会の地区役員個人としてお礼申し上げます。

いろいろな状態、いろいろな境遇の会員のお世話に明け暮れて、ここまで大きくして頂き、今度は多くの方に認められた法人になりました。

今まで以上に責任が重くのかかってくる事と思ひますが、多くの方が皆様の活動とこれ以上の発展を願っています。今でも日本一と思つて応援させていただいていますが、更に大きく世界一の事業所にならんことをお祈りし、応援、お手伝いさせていただきます。更なる発展を心に誓い、お互いになくはならない事業所として頑張ります。

この度は、大変おめでとうございました。



講演会

10月11日に、俳優の米倉斉加年さんが、「生きるということについて」講演をされました。講演の内容が素晴らしかったので、その概要をお知らせします。ただ、講演を聞き流したものを文章にしますので、米倉さんの講演と違ったり、意味の取り違えがあるかもしれませんが、お許しください。



最初に米倉さんは、「生きる」ということは、「食べる」ということだ、と切り出されました。生きていくためには、食べなければならぬ。戦時中、父は出兵し、母一

人で僕と妹、生後間もない弟の四人で、生活していましたが、食べるものがなく、弟は死にました。母一人で、家族全員の飢えをしのごうができませんでした。食べるものがなくなると死んでしまいます。戦争で弟は殺されたのです。だから、私は、戦争はいかなる理由があろうとも、反対です。

日本では、三万人の自殺者がいる。イラク戦争では一人しか死ななかったではないか、という理由で戦争を肯定する人がテレビに出演していましたが、とんでもない話です。一人人なら死んでもいいのですか。

今年、「小林多喜二」という演劇を演出して、全国を回りました。「小林多喜二」上演のときに、一切のマスコミ取材を拒否しました。一切宣伝をしたくなかったからです。しつこく、取材を依頼してきた新聞社もありましたが、一切拒否しました。たった一人で観客が来てくれ

ばいい、一人でも、私の演劇を見に来てくれたらそれでいいと思っています。一人でも私の演劇を見て何かを感じてもらえれば、それでいいのです。

ところが驚くべき状況が現れました。毎日毎日、大入り満員の盛況でした。大感激をしました。観客は、白髪と禿の人たちばかりです。若者は一人も来ていません。若者を責めるつもりは毛頭ありません。それでいいのです。自分たちの経験や体験を若者に伝えるのは、白髪と禿の高齢者しかできません。老人がし



っかりしないと、世の中はうまく行きません。

私は、福岡で生まれ育ちました。私の子供の頃は自然が一杯でした。メダカやイモリ、蛙、ミズスマシなど周りにたくさんいました。今は、アスファルトで塗り固められ、大きいビルが立ち並び、昔の面影はありません。故郷とはいものだといいますが、もう福岡には故郷はありません。海岸線も昔あったところから数十キロも遠くになってしまっています。自然破壊がどんどん進んでいます。ただ一つ赤坂市場だけは、昔のままの姿をとどめています。ここだけが、私の故郷です。

お年寄りや大切にされる社会が本当の社会で、平和に暮らせます。一旦戦争になれば、最初にお年寄り、子供、社会的弱者が命を奪われます。私

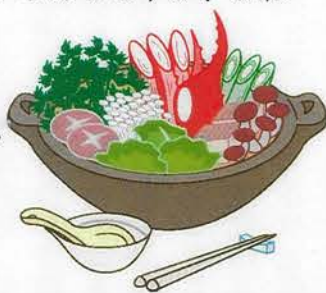


の弟がそうです。戦争は「生きる」ということに敵対するのです。社会的弱者が大切にされる世の中こそが、安心して平和に暮らすことの出来る世の中です。そういう世の中こそ、「生きる」事が出来る世の中だと思えます。

(米倉斉加年さんのお話の一部を紹介しました)

文責 江頭博幸

福岡に冬を知らせる大相撲九州場所が来月から始まりますが、冬となると鍋ですよネ。鍋といってもいろいろありますが、お相撲さんが食べる「ちゃんこ鍋」の名前の意味をご存知でしょうか？ お相撲さんが作る料理は全てが「ちゃんこ」とよばれています。お相撲さんがカレーを作っても、パスタを作っても「ちゃんこ」だそうです。



編集後記

チャン チャン おわり 編集局